

CO₂排出量データ
第三者レビュー報告書

株式会社セブン&アイ・ホールディングス 御中



2009年9月28日



ビューローベリタスジャパン株式会社(以下、BVという)は、株式会社セブン&アイ・ホールディングス(以下、セブン&アイHLDGS.という)の責任において作成されたCSR Report 2009に記載される2008年度エネルギー使用に由来するCO₂排出量データ(物流を除く)のレビューを実施した。BVの責任は、CO₂排出量データについて独立の立場からレビューし、その結果を報告することであり、検証を目的とするものではない。

レビューの概要

- BVは、セブン&アイHLDGS.との合意に基づき、以下についてのレビューを実施した。
- ・セブン&アイHLDGS.及び主要事業会社におけるCO₂排出量関連のデータマネジメントシステム
 - ・CSR Report 2009に記載されたCO₂排出量データのうちエネルギー使用に由来するもの(物流を除く)

なお、レビューにあたって訪問したサイトは以下の通りである。

会社名	訪問サイト
株式会社セブン&アイ・ホールディングス	本社
株式会社セブン-イレブン・ジャパン	本社
株式会社イトーヨーカ堂	本社、川崎港町店
株式会社そごう・西武	本社、そごう 横浜店、西武百貨店 船橋店
株式会社ヨークベニマル	本社、大槻店
株式会社セブン&アイ・フードシステムズ	本社、デニーズ北池袋店

レビューの結果

1. グループ内の各拠点からセブン&アイHLDGS.へ報告されたデータにはいくつかの軽微な誤りが発見されたが、全て修正された。
2. セブン&アイHLDGS. CSR Report 2009に記載されたエネルギー使用に由来するCO₂排出量データ(物流を除く)とセブン&アイHLDGS.が収集したデータとの間に矛盾する内容は認められなかった。

レポート総括

ことしのCSRレポートは、CSRを兼任して間もない、20代・30代の社員3人が自由につくりました。

私が彼らの年齢であった1960年代半ばから1980年代にかけては、CSRという言葉はもちろん「環境問題」という言葉すら、ほとんど聞かれず、この分野で頻出した言葉は水俣病に代表される「公害」であり「六価クロム」が新聞の一面から社会面まで大きく取り上げられる、といった時代でした。

80年代末から急速に環境問題への社会的関心が高まり、やがて環境だけではない企業の非財務的側面のあり方を考える「サステナビリティ」などの概念を経て、世紀を越えたあたりから、CSRという概念が次第に定着してきました。

彼ら3人がいまの私の歳になったころ、CSRはどういう概念に発展しており、どのような形で社会に定着しているか、さまざまに考えます。

持株会社を設立して4年、私たちはCSRの課題、事業活動を行っている地域のすべてに説明責任を負っていると考えております。

ことしは米国、中国、また金融事業も報告しておりま

す。米国などでは極めておもしろい、米国らしいCSRを考えております。

レポートで取り上げる課題として、ことしは社外アドバイザーの意見も採り入れて①サプライチェーン、②CSRマネジメント、③環境負荷、④安全・安心、⑤地域社会、⑥働きがいのある職場——の、いまの当社にとって重要性の高い6分野といたしました。

切り口が明確で読みやすいものになったと考えております。ISO26000の現在の草案では、CSR(SR)の領域として、①ガバナンス、②人権、③労働、④環境、⑤公正な業務執行、⑥消費者問題、⑦コミュニティへの参画・開発——の7項目が考えられています。

弊社グループは、これからもCSRの概念を本業に取り込み、結果として企業価値を高めるにはどう考えるべきか、この課題を真摯に考え続けてまいります。

皆様のご支援をお願いする次第でございます。

(株)セブン&アイ・ホールディングス
常務執行役員
CSR統括委員会委員長

稲岡 稔

編集後記

「CSRレポート2009」をお読みくださり、ありがとうございました。

セブン&アイHLDGS.が誕生してから4年が経ち、その間、新しい事業会社が変わり事業領域も拡大を続けています。このことから毎年、レポートの作成にあたっては、持株会社としての統一感と、事業会社の活動報告の両立を図る報告形態を模索してきました。

今回のレポートでは持株会社の役割と、各事業会社の取り組みを明確に表すことを念頭に作成しました。掲載情報の選定には社外アドバイザーの方から客観的なご意見をいただき、従来採用していた第三者コメントの掲載とは異なる体裁を採っています。

社外アドバイザーの方からいただいたご意見の中には、グループ全体の方針・目標の明確化など、今回十分に反映

できなかったご指摘も多くあります。しかしこの過程を経たことで、弊社が取り組むべきCSR上の課題は明らかになってきたと感じています。次年度以降では、さらに一つひとつの課題の内容を精査し、私たちの取り組みを進めていきたいと考えています。

今後も、セブン&アイHLDGS.とグループ各社がCSR上の課題に取り組む姿が明確に伝わるレポートの作成に努めていきます。

CSRレポートを、皆様との「対話」の手段として発展させていくために、アンケートで率直なご意見をお聞かせいただければ幸いです。

2009年10月
CSR統括委員会事務局